

薬物治療アップデート講座⑤

臨床製剤設計学①②

※薬学研究科授業「医療薬学特論2」を一般向けに公開します

2022年9月17日(土) 13:10~16:20

- ①「患者に優しい製剤の調製と評価」
- ②「入手容易な素材を用いた患者に優しい製剤の調製と評価」

講師：花輪 剛久(東京理科大学薬学部 教授)

Zoomによるオンライン開催(ライブ配信)
受講料：各回3,000円(定員100名)
申込締切日：9/9(金) ※定員に達し次第受付終了



取得可能単位：日本薬剤師研修センター2単位(予定)
※受講前にPECS(薬剤師研修・認定電子システム)に登録が必要です
※本学教員、在学生は無料で受講できます(要申込)

【授業概要 臨床製剤設計学①】-患者に優しい製剤の調製と評価-

「患者に優しい製剤」という言葉を聞くと、OD錠や嚥下補助ゼリーをイメージする方が多いと思います。私達もこの語を冠して様々な製剤な製剤開発に取り組んできましたが、その端緒となった背景は我が国の高齢化にあります。

我が国の平均寿命は上昇の一途をたどり、厚生労働省の2021年の簡易生命表によると男性の平均寿命は81.64歳、女性の平均寿命は87.74歳と、高齢化の様相を呈しています。これは、セルフメディケーションを実施しなければならない高齢者数の増加をもたらします。「患者に優しい製剤」の開発はいわゆるシルバーサイエンス研究に端を発していますが、私達は、すべての世代の患者さんに服用(使用)しやすい製剤開発が必要と考え、医療現場のニーズに応える様々な剤形を提案しています。今回はその研究の一端を紹介します。

【臨床製剤設計学②】-入手容易な素材を用いた患者に優しい製剤の調製と評価-

創傷治癒は、組織障害を受けてから「止血→炎症期→増殖期→成熟期」の段階を経て完了することが知られています。多くの場合は創傷の深さや大きさに依存するものの自然に修復・治癒に至りますが、糖尿病性潰瘍や壊疽、閉塞性動脈硬化症など基礎疾患に併発して生じる難治性皮膚潰瘍である慢性創傷は長期間にわたる治療が必要となり、患者さんに身体的かつ精神的ストレスを与えます。私達は身近にある高分子素材を用いて複雑な形状の創傷や皮膚疾患に適用可能な製剤を医療現場で容易に調製する方法論について研究しています。今回はその研究の一端を紹介します。

受講予約
お問い合わせ

受講希望の方はホームページよりお申し込みください
東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター(SCCPEP)
<https://www.tus.ac.jp/sccper/>

申込についてのお問い合わせ先 sccper@admin.tus.ac.jp